

省略(注)の箇所は、著作権の都合上省略しています。

2026年度 中期入学試験問題

文系型受験

- ◆建築学科／建築専攻（文系型）
- ◆建築学科／インテリアデザイン専攻（文系型）
- ◆建築学科／かおりデザイン専攻（文系型）
- ◆建築学科／都市空間インフラ専攻（文系型）
- ◆情報デザイン学科（文系型）
- ◆総合情報学科（文系型）

国

語

受験上の注意

※2教科受験型です。受験する教科数に過不足があると判定しない場合がありますので注意してください。

1. 受験票は、机の端の見える位置に置いてください。
2. 解答用紙はマークシート（解答用紙 A）が1枚、記述（解答用紙 B）が1枚です。
3. 試験監督者の指示により、氏名、入学試験種別、受験型、受験番号をマークシート（解答用紙 A）と解答用紙 B の指定された場所に必ず記入・マークしてください。
4. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
5. 試験開始後は、試験終了まで退室できません。
6. 用件のある場合は、手を挙げてください。
7. 解答は、マークシート（解答用紙 A）と解答用紙 B のそれぞれ指定された解答欄に記入・マークしてください。
8. マークシート（解答用紙 A）の記入上の注意
 - (ア)マークシート（解答用紙 A）の解答欄は1～19まで使用します。
 - (イ)マークシート（解答用紙 A）に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - (ウ)マークは、鉛筆もしくはシャープペンで、ていねいにマークしてください。また、訂正の場合は消しゴムで完全に消してください。
 - (エ)解答はマークシート(解答用紙 A)に記載のマーク例を参考に解答欄にマークしてください。例えば⑩と表示のある問いに対して3と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしてください。

(例)

9. 問題用紙は持ち帰ってください。
10. 解答用紙 B の※印の欄には記入しないでください。

解答番号	解答欄
10	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

[一] 次の文章を読んで、後の問い(問一～七)に答えよ。ただし、解答は指定された解答用紙に記入すること。

省略(注)

省略(注)

省略(注)

省略(注)

問一 傍線部(ア)～(エ)のカタカナを漢字に改め、**解答用紙B**に答えよ(楷書で正確に書くこと)。

問二 二重傍線部 a・b の読みを、a はひらがな四字、b はひらがな三字で、**解答用紙B**に答えよ。

問三 次の文 X・Y は、もともと本文中にあったものである。元に戻すとしたら、本文中の「A」～「F」のどこに入れるのが最も適当か。後の ①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は、X は **1**、Y は **2**。

X そして、それを大規模に展開する。

Y そう、近くに暮らす人類です。

- ① 「A」 ② 「B」 ③ 「C」 ④ 「D」 ⑤ 「E」 ⑥ 「F」

問四 傍線部①「それでも人類は農耕をやめませんでした」とあるが、ここで述べられているのはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の ①～⑤の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は **3**。

- ① 人類にとって農耕は肉体的な負担となっただけでなく、農耕で生じた定住生活は感染症の増大といった危機的な状況をも招来したが、いったん始めてしまった農耕をやめることはさらなる危険をもたらすことにもなりかねなかったということ。
- ② 人口の増大につれ狩猟採集という手段では生活を維持することができなくなった人類は、農耕生活を始めるしかなくなり、それが災難をもたらすものであっても、農耕に適応するよう肉体を進化させるしかなかったということ。
- ③ 当初の農耕はわずかな種類の作物しか収穫できないような貧しく偏ったものだったが、人口の増大するなかでより多様な農作物を得る必要が生じてきたため、人類は農耕をやめることができなくなってしまったということ。
- ④ 農耕は、狩猟採集生活の時代にはなかった様々な危険を人類にもたらしたが、より効率的な食料の獲得を可能にするものであり、しかもそのことで生じた人口の増大という状況のなかで、農耕は不可欠なものになっていったということ。
- ⑤ 狩猟採集と違って農耕では余剰の食糧を得ることができるが、そうした余剰の食糧がある豊かな生活に慣れきってしまった人類は、もはや農耕をやめることができず、後戻りできない進化の道をたどることになったということ。

問五 傍線部②「人類史上二番目のエネルギー革命」とあるが、では三番目の「エネルギー革命」によって新しく生まれたものは何か。それが言い表されている三字以上五字以内の語句を本文中から抜き出し、**解答用紙B**に答えよ。

問六 傍線部③「戦争に勝利することで獲得した土地」とあるが、なぜ「土地」を「獲得」しようとするのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は **4**。

- ① 農耕によって営まれる社会では土地に降り注ぐ太陽エネルギーが必要となるため、その太陽エネルギーを各集団が確保しようとするから。
- ② 大土地所有制によって多くの奴隷を使った農業が盛んになるにつれ、そうした奴隷たちの生活の場としてより広い領土が必要になってくるから。
- ③ 土地を持たない没落農民の増加は国の競争力を弱めてしまうため、国を強くするには農民に土地を与え、彼らの地位を高めてやる必要があるから。
- ④ 土地にはそれ自体でエネルギーを生み出す働きがあり、そのエネルギーによって農耕が成立しているため、より多くの土地を獲得しようとする動きが生じるから。
- ⑤ 戦争に勝利して新たな土地が得られれば、多くの奴隷も獲得でき、狩猟採集社会から農耕中心の社会への転換もより円滑に行われることになるから。

問七 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は **5**。

- ① 人間の作り出した文明には光と闇というべきものが内在しているが、農耕の大規模な進展が光だとすれば、闇は奴隷制度だということができる。
- ② 人間の体内では、取り込まれたエネルギーをめぐって脳と筋肉とで奪い合いが行われているが、脳の優位が保証されてはじめて、人間のなかに「より賢くなりたい」という欲望が生じた。
- ③ 文明や余暇はエネルギー収支に余裕が生まれることではじめて成立したものだといえるが、現在でもそうした余裕とは縁遠い生活を強いられている人々は存在している。
- ④ 狩猟採集生活の時代において、人間の活用できる一番のエネルギー源は人的エネルギーだったが、農耕が始まると、その地位は太陽エネルギーに取って代わられることになった。
- ⑤ 農耕社会の歴史とは、社会を無限に膨張させようとする支配階級と、そうした膨張を何とか食い止めようとする奴隷たちとの、はてしない相克の歴史だったといえる。

[二] 次の文章を読んで、後の問い（問一～五）に答えよ。ただし、解答は指定された解答用紙に記入すること。

省略(注)

省略(注)

(注) 猖獗……勢いの盛んなこと。

問一 傍線部(ア)～(エ)のカタカナの部分に該当する漢字と同じ漢字を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は **6** ～ **9**。

- (ア) カンロ **6**
- ① はじめがカンジンだ。
 - ② イカンの意を表明する。
 - ③ カンセイな住宅街に居を構える。
 - ④ カンレイに従っておけばよい。
 - ⑤ いかなる非難もカンジュする。

- (イ) エンテンカ **7**
- ① エンマンな解決を目指す。
 - ② エンロはるばるやってくる。
 - ③ エンショウを抑える薬を飲む。
 - ④ シュクエンを催す。
 - ⑤ 会社のエンカクをまとめる。

- (ウ) タイセイ **8**
- ① 未完のタイキ。
 - ② ニンタイを要する。
 - ③ 革新勢力のタイトウ。
 - ④ 栄誉ある賞をジタイする。
 - ⑤ タイメンを汚すような行為を慎む。

- (エ) イシヨク **9**
- ① 菌がゾウシヨクする。
 - ② 因習をフツシヨクする。
 - ③ 原野にニユシヨクする。
 - ④ カンシヨクに追いやられる。
 - ⑤ 企業のフンシヨク決算。

問二 空欄 **A** ～ **C** に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、**解答用紙A**に答えよ。ただし、同じ言葉を繰り返し用いてはならない。解答番号は、**A**は **10**、**B**は **11**、**C**は **12**。

- ① よしんば
- ② とうに
- ③ なんと
- ④ しばし
- ⑤ いきおい

問三 空欄 **X** ・ **Y** に入れるのに最も適当な漢字一字を、**解答用紙B**に答えよ(楷書で正確に書くこと)。

問四 傍線部①「文明と病気の皮肉な関係」とあるが、それはどういうことか。本文を踏まえて四十字以内(句読点や記号なども字数に含める)で、**解答用紙B**に答えよ。

問五 筆者の考えに合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は**13**。

- ① アフリカに行ったことで、ふだん気付いていなかった体の実感を思い出すことができたが、体の実感を失ったことで得たものがあるという事実こそ目を向ける必要がある。
- ② 伝染病対策に携わっている堤先生は、ケニアのマサイ族の人たちと暮らす中で、彼らの生活の知恵を学んでいったが、堤先生が彼らに伝えた知識にはそれに劣らない価値があった。
- ③ マサイ族の人たちにとって、臓器が生命を支えると同時に生命に支えられてもいるといったことは自明のことだが、そうしたことをマサイ族以外の人が理解する道は閉ざされている。
- ④ 近代的医療では、臓器は単に体を構成する要素の一つとして扱われる傾向が強いが、マサイ族の長老の話は、そうした傾向を見直すことを促すものになりうる。
- ⑤ アフリカには、外界と直接つながる体によって自然は統御されるべきだという考えがあるが、そうした考えが生じるのは、アフリカの自然が人間にとってあまりにも苛酷だからである。

[三] 次の文章を読んで、後の問い(問一～五)に答えよ。ただし、解答は指定された解答用紙に記入すること。

省略(注)

省略(注)

省略(注)

です。改めて言うと、これは、お互いがどんな価値観や感受性の持ち主であっても、どんな行動をしたとしても、それが他者の「自由」を侵害しない限り認め合うことをルールとした社会です。その上で、お互いの「自由」を調整し合う社会です。

国や文化や世代を超えて、多様な人びとの「共生」がますます避けられなくなっている今日、わたしたちは、この「自由の相互承認」の感度をいっそう高めていくことが求められています。単にルールを整えるだけでなく、その「感度」を耕していく必要があるのです。教育は、これからも、そのためのものとも重要な土台であり続けるでしょうし、あり続けなければなりません。そしてそのために、わたしたちは、学校のあり方そのものもまた、根本から考え直していく必要があるのです。

(苦野一徳「多様で異質な人たちとの共生と教育」による)

問一 傍線部(ア)～(ウ)のカタカナを漢字に改め、**解答用紙B**に答えよ(楷書で正確に書くこと)。

問二 空欄 **A** 〳 **C** に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、**解答用紙A**に

答えよ。ただし、同じ言葉を繰り返し用いてはならない。解答番号は、**A**は **14**、**B**は **15**、**C**は **16**。

- ① いわば ② とりわけ ③ とうてい ④ そればかりか ⑤ にもかかわらず

問三 傍線部①「お互いが、お互いを対等な存在として認め合うこと」とあるが、これができるようになるための条件として、筆者はどのようなことが必要だと言っているか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は **17**。

- ① 人類が戦争を終わらせるようにすること。
② 自由の相互承認の原理について考察していくこと。
③ 誰もが学校で学べるようになること。
④ その場の空気を読む力を、私たちが身につけていくこと。
⑤ わたしたちが多様な人たちと出会い、知り合うこと。

問四 傍線部②「学校を……『ごちやませのラーニングセンター』にしていく」とあるが、筆者がこう考えているのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は**18**。

- ① 学校の意義それ自体はまだ薄れているわけではなく、実際に多くの学校が存在している以上、いたずらに統廃合を進めたりするのではなく、学校というものをあらためて再評価していくことが望ましいから。
- ② 「自由の相互承認」の感度を高めていくには多様な人びと同士が共生が必要である以上、学校を何かを学ぶための場と捉えるのではなく、さまざまな人びとの自由を最大限に保証する場として捉えていくべきだから。
- ③ 同じ教室で多くの生徒を一度に教えるといういまの学校のあり方は、生徒の個性を抑圧しがちであり、むしろ小規模な教室でそれぞれの生徒に合った多様な教え方をしていくことが、これからの教育には必要となるから。
- ④ 現在の一般的な学校はきわめて同質性が高いが、そうした同質性の高さは異質な存在を排除する力を引き起こしやすいため、「自由の相互承認」の原理の実現を阻害するものになってしまうから。
- ⑤ 小学生や中学生の集団では同調圧力が働きやすく、そこで子どもたちは自分が人と違う存在と見なされることを恐れがちであるため、大人たちがそうした集団に入り、多様性の大切さについて身をもって教えるようにすべきだから。

問五 次のA～Eについて、筆者の考えに合致するものが二つある。その二つの組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥の中から一つ選び、**解答用紙A**に答えよ。解答番号は**19**。

- A 多様な人びとが共生する社会においては個々人の自由ができるかぎり認められるべきだが、ただしその自由は他者の自由を侵害するものであってはならない。
- B 見世物のごとき残酷な刑罰や、人の殺し合いを見ておぞましいと感じたルソーとヘーゲルは、人と人との平和な共生を訴え、「自由の相互承認」を提唱した。
- C 多くの子どもたちに知識や技能を一度に教えるといったことは意味を持たないが、そうした無意味なことを実践していたころに、近代の学校教育の問題点がある。
- D 『ごちやませのラーニングセンター』としての学校は、いまのところ画に描いた餅にすぎないが、教育現場の人々の努力さえあれば実現も可能だと考えられる。
- E 出自や人種が違ってもみな同じ人間であるということを、わたしたちは自明のことのように感じているが、そうなったことは学校教育によるところが大きい。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① A・B | ② A・C | ③ A・D | ④ A・E | ⑤ B・C |
| ⑥ B・D | ⑦ B・E | ⑧ C・D | ⑨ C・E | ⑩ D・E |